

山行報告

「鋸岳(厳冬期アルパイン)」



山行日時 2016年2月27~28日(1泊2日)

記録 久我隆泰

メンバー：久我(L)、若林、依田

ルート：戸台口駐車場—角兵衛沢出合—大岩ノ下(幕営地)—鋸岳東側のコ
ル—第1高点—鹿の窓—第3高点—第二高点—中ノ川乗越—熊の穴沢
—熊の穴沢出合—戸台口駐車場

1. 前書き

2月27,28日の最終週末を利用して、夏に登頂を果たせなかった鋸岳にリベンジするべく入山してきました。その敗退となった夏の記録は下記アドレス先です。良かったらどうぞ。山行報告「八丁尾根～鋸岳～甲斐駒ヶ岳」

<http://ameblo.jp/tama-xx/entry-12057748364.html>

<http://ameblo.jp/tama-xx/entry-12058330210.html>

今回のルートは夏とは違い、戸台から入って甲斐駒は登らず帰ってくる1泊2日です。我々にとっては難しいルートではないと考えますが、この暖冬により雪が少なかったりグズグズだったりすれば、現場判断が余儀なくされる予断は許さないルート。冬期にアルパインルートに入るからには、最悪を想定して常に準備しておく必要があるでしょう。

おまけに、蓋を開けてみるとヤマテンから暴風雪予報が出た(初日0時の山頂風速24m/s)。翌日の午前中は20m弱の風が吹くそうだから、その通りなら危ない。ともあれ、仲間からやめませんかのお伺いメールは来なかった。皆モチベーションは高い。山はルートにもよりますが、天気についても入山してからの現場判断がお約束。天気予報が悪いからというだけで、山行をつぶしていたら経験値は稼げません。

というわけで、暴風雪予報のもと、天候を伺いながらの山行となりました。道中も幕営地等の変更、及び増えるリスクの話し合いを持ちつつ、撤退も視野に入れた行軍です。

2. 山行記録 (2月27日)



鋸岳を登るルートは一般登山道ではないので、警告看板がやたらと多い。それだけ事故が多いということだろうか。(8:20)



「リスクを想定しろ、装備は万全に」といえば、今回のルートは、厳冬期とはいえ、登りでザイルを出すようなところはなく、ザイルは稜線上で懸垂下降2回（10mと25m）でしか使わないルートでした。昔のわたしなら50mザイル1本で済ませていたところでしょうが、しっかりリスクを想定してしまうと、50mザイルを背負っている人間（わたし）が滑落した場合のことはもはや無視できない。50mザイルがなくなっても隊員2名が下山できるようにしておかねばならず、そうすると保険の30mザイルを装備に加える必要が絶対ある。

さらに30mザイルを背負っている人間も落ちた場合のことも考えると、そこに10m捨て縄も追加。今回は50m、30m、10mをそれぞれが持つ形となった。仲間からは、いらぬのではないか？と暗にほのめかされたが、想定できるリスクを無視せず向き合うとこの装備は外せない。この装備を担げないなら、このルートに入ってはいけないということだ。必要なのはギアを減らすことではなく、想定できる必要なギアはすべて持っていくこと。そういうことができる体力と歩荷力を養うこと。

リーダー山行をやるなら、自分が落ちていなくなった後の仲間のこと、仲間の動きまで念頭に置いて、装備を組み立てる必要があると思う。というわけで、わたしたちの装備は他パーティよりあきらかに重いと思われます。でも、安全を最優先にするとこうなるのだからしょうがない。



角兵衛沢出合まで戸台川沿いを進みます。確か片道 5 km 前後。雪がまったく
ない。稜線上には果たしてあるのか。雪がないことを想定して角兵衛沢出合で
水を 6L 担ぐことにする。(10:30)



登りも雪は見当たらず、



雪と対面せぬまま、幕営適地とされる大岩の下に到着。風はまだ全然吹いていないが、予定通りコルまで上がって、そこで24mの風に吹かれてはたまらない。本日はここで幕営とする。(14:00)



大岩の下の幕営適地は3~5張れないこともないけど、落石を考えると完全に安全なのは精々2張程度でした。



幕営適地は水が出ており、雪がなくとも水を上げる必要はなかった。ともあれ翌日の水を楽に調達できたので、そこは目出度い。この日は14時とかなり早い時間になってしまったけれど、天候様子見で幕営することにしました。その変わり翌日の起床を2時間早めることにして、早めの就寝としました。

3. 山行報告 (2月28日)

夜間の暴風を避けるため、初日の幕営地をコルから大岩ノ下まで下げたので、起床を2時間早めて出発とした。今日も長い1日となるだろう。(3:40) 幸いしたのは懸念していた暴風が吹いていないこと。低気圧は来なかったようだ。上空を見上げて雲が早いということもない。これは予報外れの好天パターンか。やはり山の判断は入山してからしてなんぼです。



暴風は吹かなかったけれど雪は降った。角兵衛沢のガレは雪化粧をまとい、岩雪崩を起こさないよう最善のルート選択を求められた。今回は夜間行となっ

たので、仲間が何度か岩雪崩を起こしてしまっていたので、下に他パーティがいたら危なかったかもしれない。こういう些細な技術も積み上げていかないといけない。

ガレの弱点をつきながら、右に左に角兵衛沢を登っていると、岩稜の下部に突き当たった。角兵衛沢は意識を左にもっていないとダメなのは分かっていたけど、思っていたよりも右を登っていたようだ。左へ向かうため、ザイルを出して岩稜ラインを左方向へ登攀しようかと思ったものの、仲間から右側のルンゼに入ろうと提案があり、偵察を出すと登れるという回答だったので、角兵衛沢のコルへ出るのは諦め、鋸山山頂の東側のコルへ出るルンゼをつめることにした。



コルを諦め右へ入っていくと、登れると判断した仲間が登れないと下りてきた。なんで登れないの！とワイワイガヤガヤ、スラブの上にアイスが張り付いる厳しい斜面と遊ぶことに。（@楽しい時間）仲間たちはスラブのアイスを大巻きして、雪の深い斜面をつめる。



雪の斜面は腰下のラッセルのような吹き溜まりがあったり、急な斜面では木登りになったり多面的で飽きさせない。



尾根にぬけたー



眺望も素晴らしい（北岳、間ノ岳、仙丈）



そして東側のコルから第1 高点を落とす。夏のリベンジ達成！（8:00）



ここからは鋸尾根を第2 高点まで歩く。ここからが本当の楽しい時間の到来だ。



1 回目の懸垂箇所は 10m なので 30m ザイルで対応。 (8:50)



その先の痩せ尾根を慎重にわたり (9:20)



痩せ尾根の先で北側の斜面を鹿の窓までトラバースしていくのが正規ルートだけど、この日は雪が信用できなかったので、そのまま目の前の岩稜を登攀することにした。



ほどよいレベルの楽しいクライミング。



そして登ってしまったからには、予定になかった下りがある。15mの懸垂下降を鹿の窓までやりました。(10:00)



夏には来られなかった鹿の窓をくぐり北側に出て、



雪の斜面をまた尾根上へつめて第3 高点で記念撮影。第3 高点は夏には登れないピークです。(10:15)



そこから少し先で20mの懸垂下降が必要な大ギャップに出る。枯れ木を支点にするか、枯れ木の5m上の立ち木を支点にするかは人それぞれ。わたしは一目見て枯れ木での懸垂は嫌だと、上の立木で懸垂としました。(10:30)

因みに、上の立木で懸垂する場合は下りる方向を間違えると 25m では届きません。まっすぐ下りるよう心掛けましょう。



大ギャップを降りたあとは、100m くらい下降して、再度尾根を登り返し、



最後のピーク第2 高点登頂。我々のうち2名は夏も来ました。戻ってきたぜ！
(12:30)



中ノ川乗越は尻シェードで片付け、



ある意味では核心と言ってもいい、ただただ辛い熊の穴沢のガレを下降する。広い沢だけれど、歩きやすい弱点をついて下降していたら、どんぴしゃりと登山道のマーキングにつながった。

登山道に出てからも下山は長く、戸台川との出合に到着したのは16時30分。ガレの下降はやはり時間がかかった。雪が多ければ楽だったのだろうが。戸台口駐車場に着いたのは18時40分。若干暗くなってしまいましたが、まあ予定通り。稜線独占、楽しい山行でした。

4. 山行時間

12日 8:20 戸台口駐車場—10:30 角兵衛沢出合—14:00 大岩ノ下（幕営地）

13日 3:40 幕営地—8:00 第1 高点—10:30 鹿の窓—12:00 第2 高点—16:30 熊の目沢出合—18:40 戸台口駐車場

●12日行程 5時間 40分 ●13日行程 15時間 00分

5. まとめ

今回は天気に対するリスク、岩稜で想定できるあらゆることに対する準備、山行中の雪や斜面の判断等々、色々としっかりとまとめられたので、余裕をもって楽しめる稜線行となりました。50m ザイルしかいないルートで合計 90m 分のザイルを持って山行させられることは、認識をともにしてない者には、過大な装備に感じられるかもしれないけれど、皆一応リーダーとして立ててくれ、しっかり歩荷してくれたのでなによりでした。すべてがしっかりはまり、とてもいい山行でした。

以上